
三重県景気動向調査 中間報告書

平成 25 年第 3 回(10～12 月期)



三重県雇用経済部

調査実施機関 株式会社 東京商工リサーチ 津支店

目 次

I. 調査要領.....	1
II. 調査結果の概要.....	2

I. 調査要領

1. 調査時点：平成 25 年 11 月（前期＝25 年 7～9 月、今期＝25 年 10～12 月、来期＝26 年 1～3 月（予測））
2. 調査対象：三重県内の事業所 1,500 社
3. 調査方法：郵送によるアンケート調査
4. 回答状況：460 件（有効回答率 30.7%）
5. 調査企業の業種別、従業員規模別、地域別内訳

【業種別】

	件数 合計	製造業	建設業	運輸業	情報 通信業	卸・小売業	金融・ 保険業	サービス業
調査対象数	1,500	502	150	89	29	362	24	344
回答数	460	156	48	42	8	97	14	95
構成比(%)	100.0	33.9	10.4	9.1	1.7	21.1	3.0	20.7

【従業員規模別】

	件数 合計	5 人未満	5 人以上 20 人未満	20 人以上 50 人未満	50 人以上 100 人 未満	100 人以上 300 人 未満	300 人以上 500 人 未満	500 人以上 1000 人 未満	1000 人 以上
調査対象数	1,500	301	567	251	127	153	46	29	26
回答数	460	66	127	95	66	64	18	10	14
構成比(%)	100.0	14.3	27.6	20.7	14.3	13.9	3.9	2.2	3.0

【地域別】

	件数 合計	津	四日市	松阪	伊勢	桑名	鈴鹿	伊賀	尾鷲	熊野
調査対象数	1,500	200	345	192	229	174	174	122	44	20
回答数	460	72	98	64	59	52	60	38	8	9
構成比(%)	100.0	15.7	21.3	13.9	12.8	11.3	13.0	8.3	1.7	2.0

地域名	対象市町	地域名	対象市町
津	津市	鈴鹿	鈴鹿市・亀山市
四日市	四日市市・菟野町・朝日町・川越町	伊賀	伊賀市・名張市
松阪	松阪市・多気町・明和町・大台町	尾鷲	尾鷲市・紀北町
伊勢	伊勢市・鳥羽市・志摩市・玉城町・ 南伊勢町・度会町・大紀町	熊野	熊野市・御浜町・紀宝町
桑名	桑名市・いなべ市・木曾岬町・東員町		

【注】

○構成比(%)については、小数点第2位を四捨五入しているため合計が100%にならない場合があります。

○数値の前に付した△は「マイナス」を表しています。

○DI (Diffusion Indexの略)

DI (ディーアイ) は、増加(又は「上昇」「楽」など)したと答えた企業割合から、減少(又は「下降」「苦しい」など)したと答えた企業割合を差引いた数値のことで、不変部分を除いて増加したとする企業と減少したとする企業のどちらかの力が強いかを比べて変化の方向をみよとするものです。

なお、「仕入価格DI」については、「低下」から上昇を引いた値、「雇用(人員過不足感)DI」、「在庫DI」については、「不足」から「過剰」を引いた値を使用しています。

●平成 23 年 7～9 月以降の数値は、不明回答を除く回答結果で算出しておしているため、平成 24 年 5 月調査以前の公表結果とは一致しません。

II. 調査結果の概要

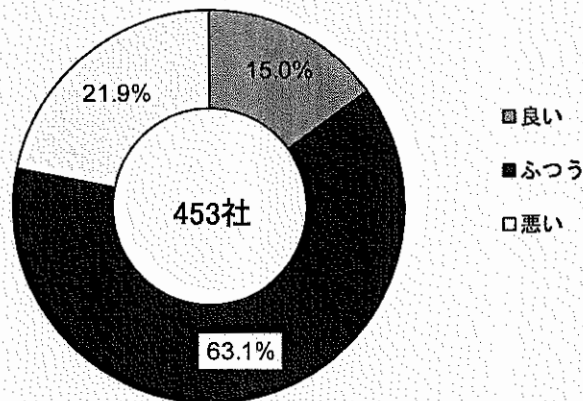
1. 景況感

「今期（平成 25 年 10～12 月）の県内景気」の水準について、「良い」は 15.0%、「ふつう」は 63.1%、「悪い」は 21.9%となっています。

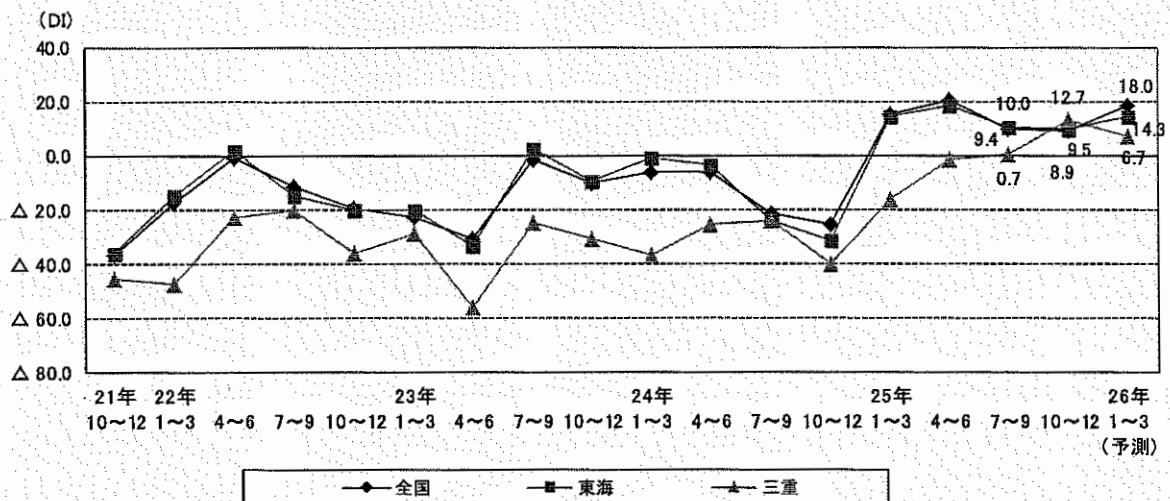
前期（平成 25 年 7～9 月）と比較した「県内景況感 DI」は、今期はプラス 12.7 ポイントで、前期より 12.0 ポイント上昇し、好感感が大きく強まっています。来期はプラス 6.7 ポイントと今期より 6.0 ポイント下降し、増勢が一服すると見込まれています。

内閣府『景気ウォッチャー調査』の全国と東海地方の景況感（10 月調査）をみると、全国、東海のいずれもほぼ前期同様の水準で推移しています。先行きの見通しは、全国が大きく良化し東海も幾分回復すると見込まれています。

今期の県内景気(水準)



県内景況感 DI(前期比)と全国・東海地方の景況感



	21年 10~12	22年 1~3	22年 4~6	22年 7~9	23年 10~12	23年 1~3	23年 4~6	23年 7~9	24年 10~12	24年 1~3	24年 4~6	24年 7~9	25年 10~12	25年 1~3	25年 4~6	25年 7~9	25年 10~12	26年 1~3 (予測)
三重県	△ 45.6	△ 47.6	△ 23.2	△ 20.3	△ 36.0	△ 29.2	△ 56.0	△ 25.3	△ 31.3	△ 37.1	△ 25.5	△ 24.0	△ 40.3	△ 16.2	△ 1.5	0.7	12.7	6.7
全国	△ 37.3	△ 17.9	△ 0.7	△ 11.4	△ 19.4	△ 22.7	△ 30.7	△ 1.8	△ 10.4	△ 6.2	△ 6.4	△ 21.7	△ 25.7	15.2	20.5	9.4	8.9	18.0
東海	△ 36.2	△ 15.0	1.3	△ 14.7	△ 20.2	△ 20.1	△ 33.7	2.2	△ 10.0	△ 0.8	△ 3.9	△ 24.3	△ 31.8	14.6	18.5	10.0	9.5	14.3

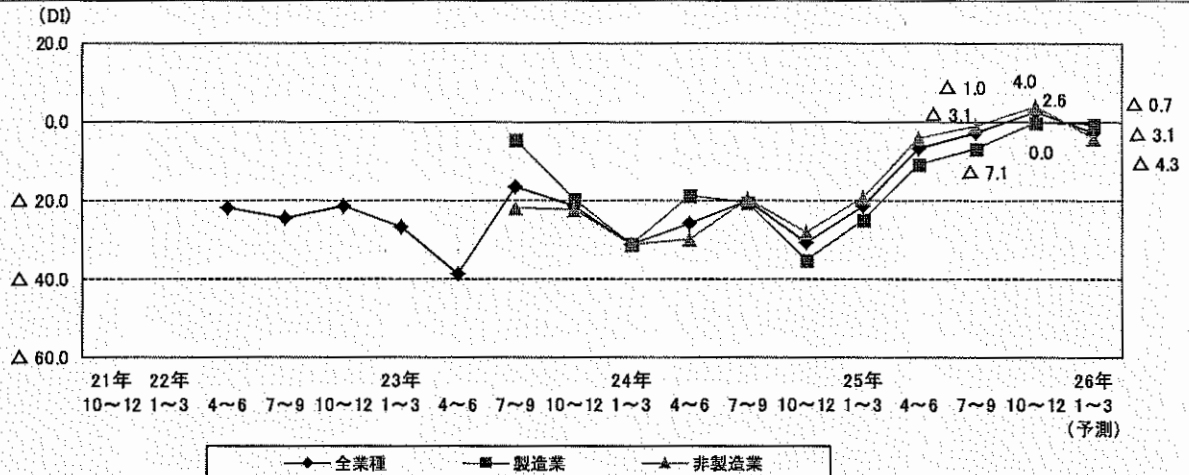
※景況感 DI=前期比で「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

※「全国」および「東海地方」は、内閣府『景気ウォッチャー調査』の月々の結果を当調査で使用している方法で再計算し、3ヶ月ごとに平均値を算出。なお、直近の値は 10 月調査の値である。

2. 業況 DI

自社の業況についてみた「業況 DI」(前期比)は、全業種でプラス 2.6 ポイントとなり、前期から 5.7 ポイント上昇と大きく改善し水面下を脱しました。来期はマイナス 3.1 ポイントと前期並の水準に落ち込むと予想されています。製造業は 0.0 ポイントと前期から 7.1 ポイント上昇して大きく上向き、非製造業はプラス 4.0 ポイントと前期から 5.0 ポイント上昇と、やや改善して好転しました。製造業、非製造業ともに、来期は再び水面下に落ち込むと予想されています。

業種別業況 DI(前期比)の動き(実績)と来期の予測



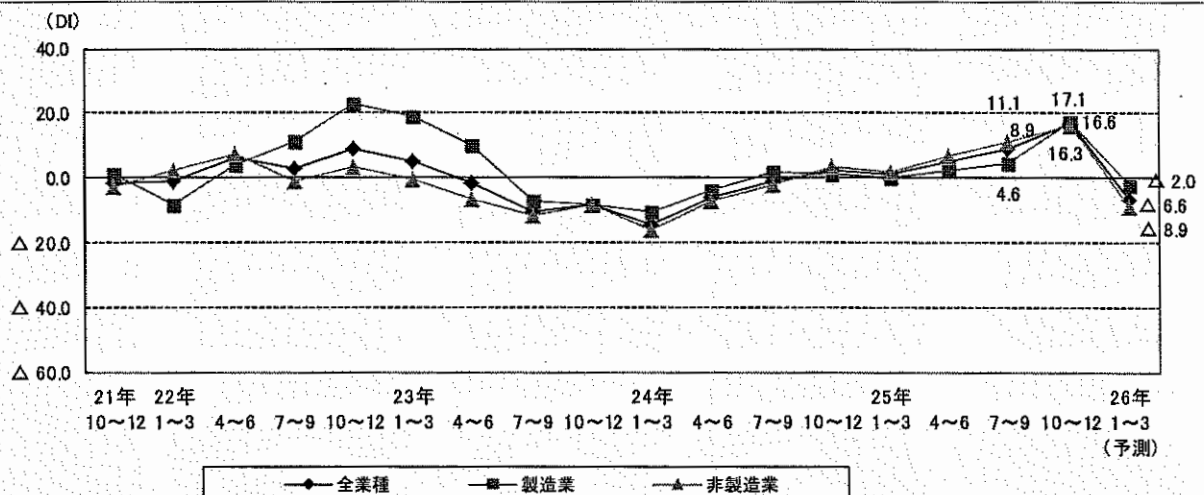
	21年	22年	23年				24年				25年				26年				
	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	
全業種			△ 21.9	△ 24.5	△ 21.5	△ 26.9	△ 39.1	△ 16.6	△ 21.7	△ 31.3	△ 26.1	△ 20.2	△ 30.8	△ 21.4	△ 6.7	△ 3.1	△ 3.1	△ 2.6	△ 3.1
製造業								△ 4.5	△ 19.8	△ 31.3	△ 18.8	△ 20.7	△ 35.4	△ 25.0	△ 10.9	△ 7.1	0.0	0.0	△ 0.7
非製造業								△ 22.1	△ 22.5	△ 31.3	△ 29.9	△ 19.8	△ 28.3	△ 19.5	△ 4.3	△ 1.0	4.0	2.6	△ 4.3

※業況 DI=前期比で、自社の業況が「好転」とする企業の割合から「悪化」とする企業の割合を引いた値。

3. 収益 DI

「収益 DI」は、全業種で今期はプラス 16.6 ポイントとなり、前期から 7.7 ポイント上昇しました。来期はマイナス 6.6 ポイントと非常に大きく下降し、増加から減少に転じる見通しです。今期、製造業はプラス 17.1 ポイント、非製造業はプラス 16.3 ポイントとなり、製造業が非製造業を 5 四半期ぶりに上回りました。来期は製造業がマイナス 2.0 ポイント、非製造業がマイナス 8.9 ポイントと予想されています。

業種別収益 DIの動き(実績)と来期の予測



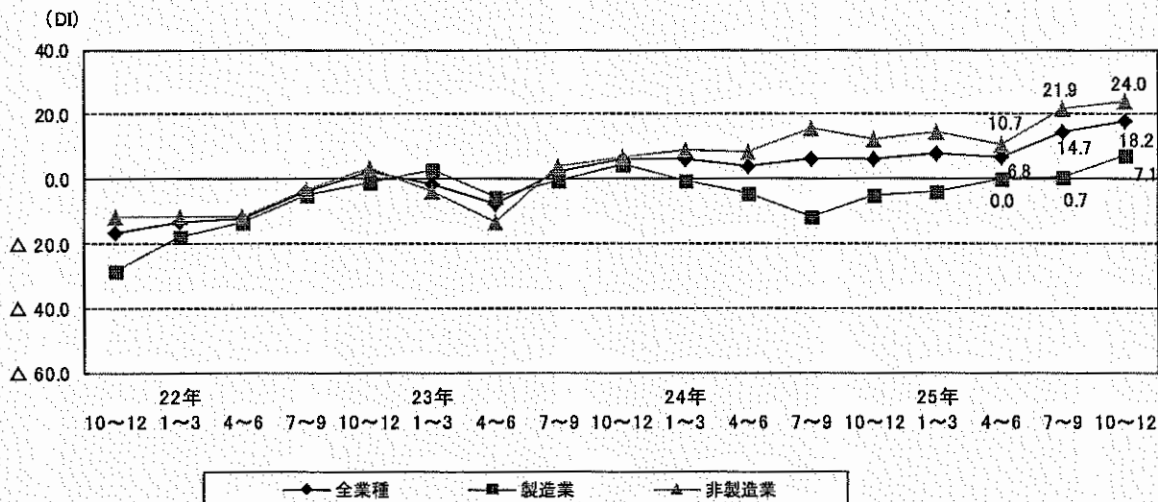
	21年	22年	23年				24年				25年				26年			
	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3
全業種	△ 1.7	△ 0.9	6.3	2.8	8.9	4.9	△ 1.8	△ 10.4	△ 8.1	△ 14.3	△ 6.1	△ 0.8	2.4	1.2	5.0	8.9	16.6	△ 6.6
製造業	0.9	△ 8.3	4.1	11.4	23.0	18.8	10.3	△ 7.2	△ 8.2	△ 10.7	△ 3.8	1.7	1.1	0.0	2.3	4.6	17.1	△ 2.0
非製造業	△ 3.0	2.1	7.3	△ 0.8	3.4	△ 0.4	△ 6.6	△ 11.9	△ 8.1	△ 15.9	△ 7.4	△ 1.9	3.2	1.7	6.6	11.1	16.3	△ 8.9

※収益 DI=収益が「黒字」とする企業の割合から「赤字」とする企業の割合を引いた値。

4. 雇用(人員過不足感)DI

「雇用(人員過不足感)DI」は全業種でプラス18.2ポイントとなって、前期から3.5ポイント上昇し、不足感がわずかながら、さらに強まりました。製造業は7.1ポイントと大きく不足感が強まり、非製造業もプラス24.0ポイントと不足感がやや強まりました。

業種別雇用の動き(実績)と来期の予測



	21年				22年				23年				24年				25年			
	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12	1~3	4~6	7~9	10~12			
全業種	△16.9	△13.4	△12.3	△3.7	2.2	△1.7	△8.0	2.3	6.2	6.2	4.0	6.3	6.1	6.1	6.8	14.7	18.2			
製造業	△28.6	△17.7	△13.4	△4.7	△1.0	3.1	△5.8	△0.7	4.5	△0.7	△4.4	△11.6	△4.9	△4.0	0.0	0.7	7.1			
非製造業	△11.8	△11.7	△11.8	△3.2	3.5	△3.6	△13.4	3.7	7.0	9.2	8.4	15.5	12.4	14.5	10.7	21.9	24.0			

※雇用(人員過不足感)DI=今期の人員が「不足」とする企業の割合から「過剰」とする企業の割合を引いた値。

5. 要約

前期と比べた県内景況感DIは、生産や観光が好調に推移するなど大きく良好感を強めています。来期は増勢が一服する見通しとなっています。

業況DIについては、今期は幾分改善して好転したものの、来期再び水面下に落ち込むと予想されています。業種別にみると、今期はサービス業、運輸業、製造業で改善・良化傾向がみられ、特にサービス業は水面下を脱しました。建設業、卸・小売業は前期並の水準で推移し、情報通信業、金融・保険業では悪化傾向を強めています。来期については、建設業は良化を強め、情報通信業は大きく持ち直し、製造業、金融・保険業は今期並の水準で推移する見通しとなっています。一方、運輸業は好調感が大きく後退し、卸・小売業は悪化傾向を強め、サービス業は再び水面下へ大きく落ち込む見通しとなっています。

雇用DIは不足感が前期に続き強まりました。